



*Dance  
with Love!*

学生くん  
と  
花屋さん



展覧会？

はい  
母さんがようやく  
海外から帰ってきて

来月展覧会が  
あるんです

そうなのか

それで  
父さんと母さんが  
タロウさんに  
会いたいから

ぜひ来てほしい  
って言うって

.....



あ...

そういうの  
苦手ですか？

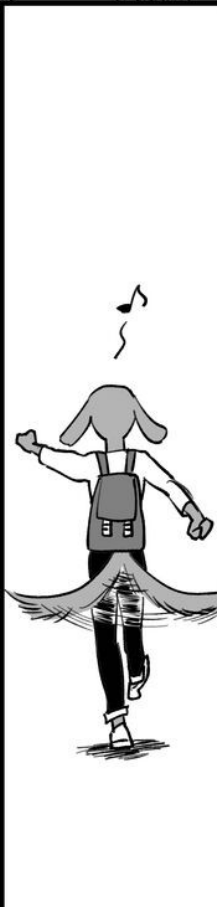
いや...少し  
緊張して...

あはは！  
まだ早いですよ

.....そうだな



パークの  
両親と.....



あれじゃ  
オレはバイト  
行きますね

ああ  
気を付けてな

はい！

家族……

パークはよく  
家族の話を  
してくれる

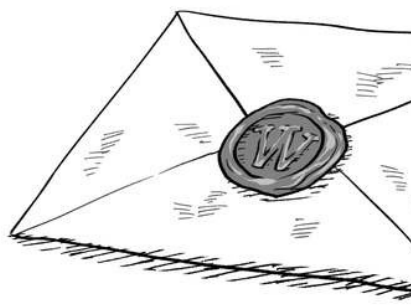
嬉しかったこと  
叱られたこと  
愚痴まで何でも



俺は  
それを聞いて

どこか遠い国の  
出来事のように  
感じていた

その「遠い国」に  
招かれてしまった



パークを育てた  
素晴らしい両親

俺はその二人の  
前に立っていいの  
だろうか？

その国に  
俺の居場所  
あるのだろうか？

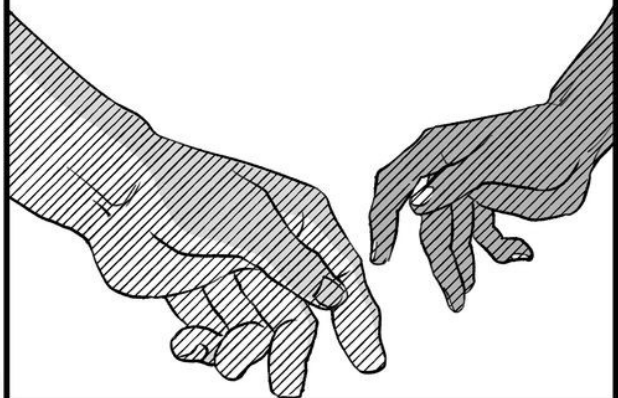


わかってる

二人が俺を  
受け入れてくれる  
ことくらい

俺にその覚悟が  
ないだけだ

ど・ち・ら・に・し・て・も  
向・き・合・う・べ・き・問・題



ああ

俺には  
お前だけなんだ

空が眩しい



きっとそこは  
楽園なのに

考えるだけで  
胸が苦しい



展覧会当日

立派な生け花だ

はい  
なんか師範とか  
やってみたいです

……すごいな

あなたが  
タロウさん？

パークスの母の  
ミヤコ・ウィルキンソンです

は  
はじめまして

タロウ・カーライル  
です

息子さんにはいつも  
お世話になってます

素晴らしい作品  
ばかりで…とても  
参考になります

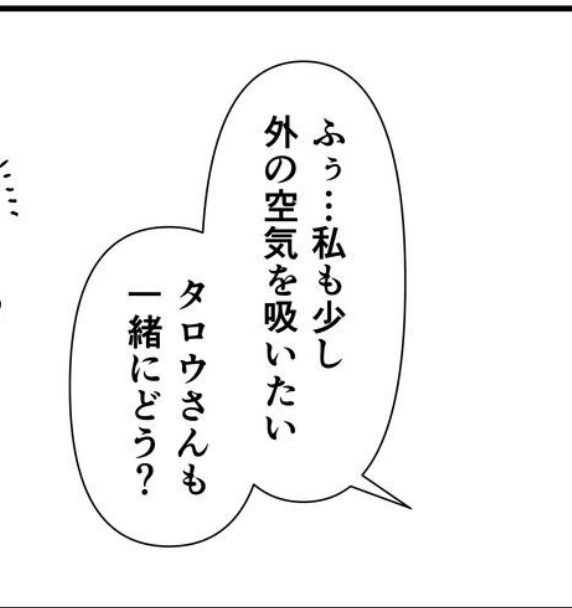
ふふ ありがとう  
夫が到着したら  
レストランへ  
行きましょう

はい…

パーク

なに？





あの子の孤独を  
受け止めてくれてる

パークが……  
孤独？

そう

あの子とっても  
お喋りでしょ？

だけど  
「秘密」や「嘘」が  
本当に下手なの

確かに……

だから友だちが  
すごく少なくて

一人仲良しの子は  
いるけど、ただけで

あの子の頭は  
いつも世界に対する  
感動でいっぱい

その感動をいつだって  
誰かに伝えたくて  
たまらない

でも

他人にとって  
あの子の感動なんて  
特に価値がない

ひとはね  
「秘密」や「嘘」

そして「価値観」が  
共通しないひとは  
親しくなれないの

……

あの子いつも  
言ってる

タロウさんが  
楽しそうに自分の  
話を聞いてくれて  
嬉しいって

そう……  
ですか……

あなたの孤独も

あの子に会って  
きっと少し変わったの  
でしょうね

……はい

でもね



孤独を  
埋め合う  
だけなら

誰にだって  
できる

……え



あなたは  
パークを幸せに  
してくれてる

でも  
あなた自身は  
幸せになろうと  
しているの？

あなたは  
心からあの子を  
手放したくないと

そう思っ  
ては  
いないで  
しょう？

それは……



パークが  
幸せに  
なれるの  
ならば

パークの  
隣に  
いるのは  
自分で  
なくても  
いい

そう考  
えて  
いない？

……っ



あ  
母さん  
こんな  
ところ  
に  
いた！

ほ  
ら父  
さん  
早  
く！

申  
し訳  
ない  
の  
だけ  
れど



そんなひとが  
うちの息子と

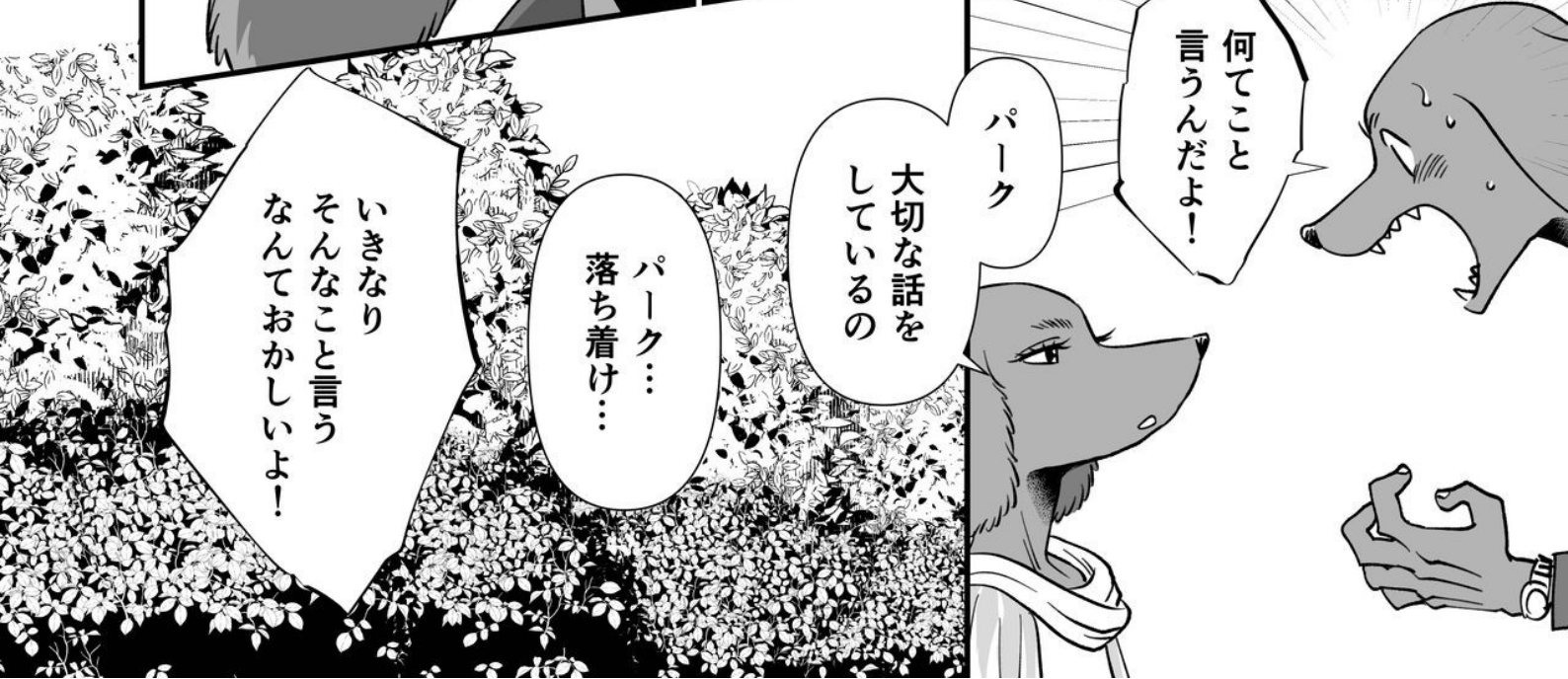
一緒について  
ほしくない



母さん…!?



…!



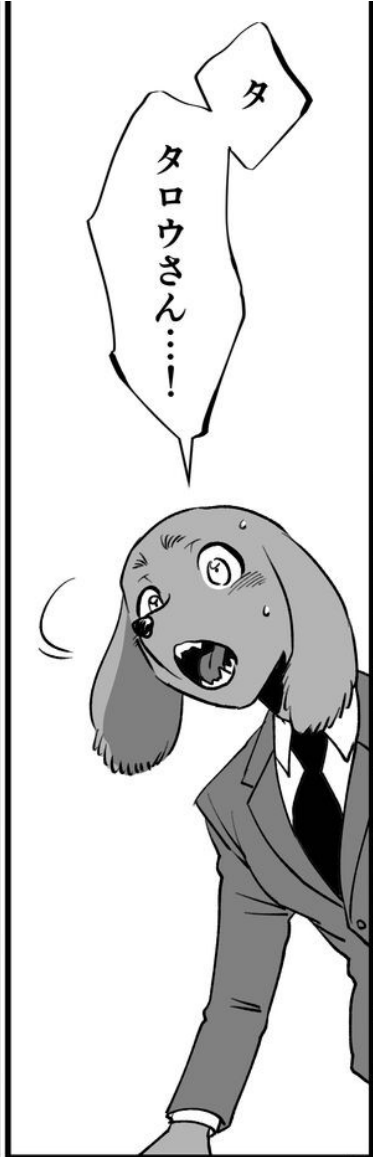
何てこと  
言うんだよ!

パーク

大切な話を  
しているの

パーク…  
落ち着け…

いきなり  
そんなこと言う  
なんておかしいよ!







あなたの  
決意

そのかたちを

…はい

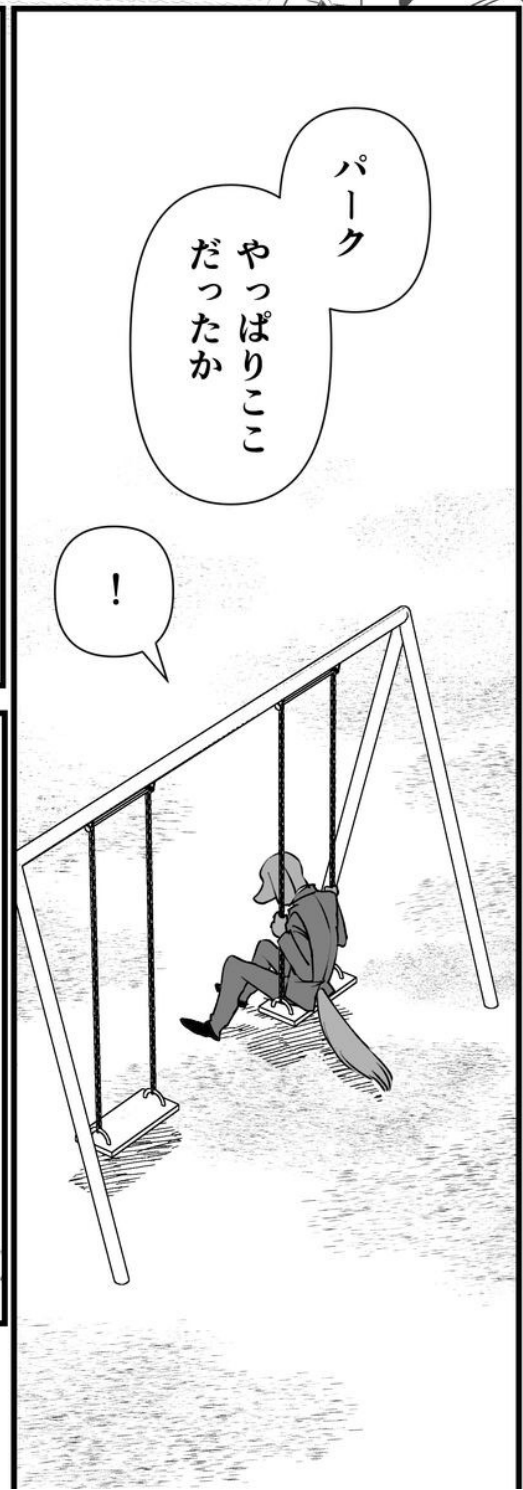


僕ももう年だし  
あまり走らせ  
ないでくれよ

はあ

はあ

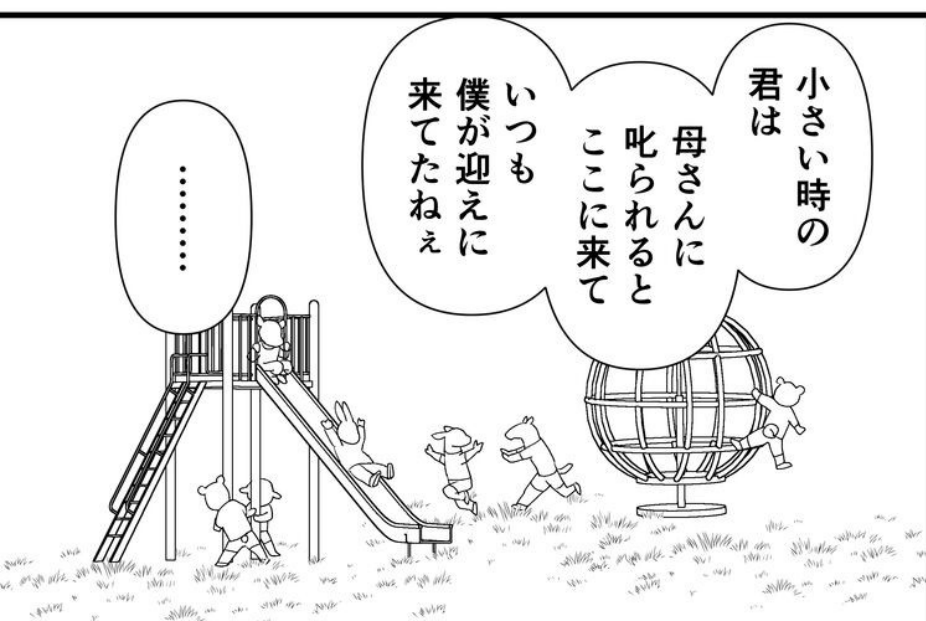
……父さんが  
勝手に追ってきた  
んじゃない…



パーク

やっぱりここ  
だったか

!

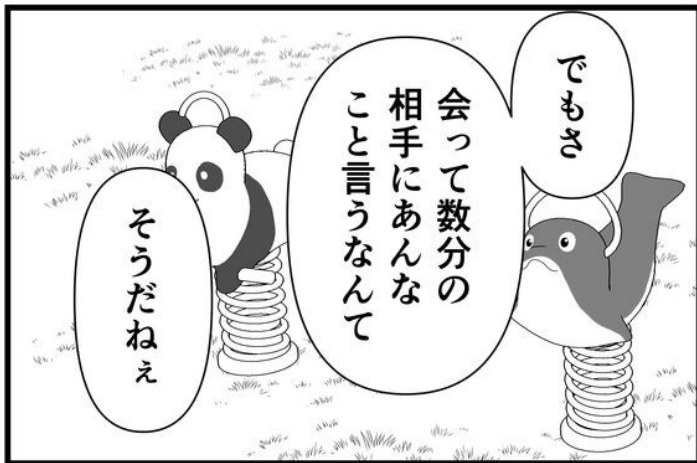


小さい時の  
君は

母さんに  
叱られると  
ここにきて

いつも  
僕が迎えに  
来てたねえ

……



そうだねえ

会って数分の  
相手にあんな  
こと言うなんて

でもさ

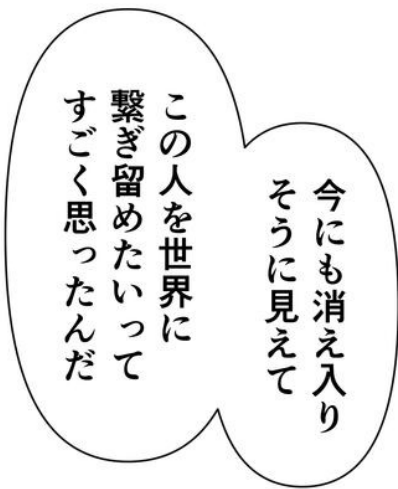


うん

母さんなりの  
大切な何かが  
あるって

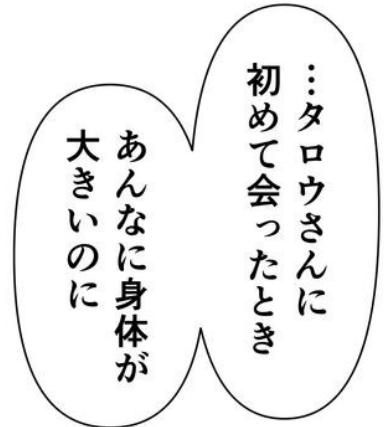
わかってるよ

母さんは



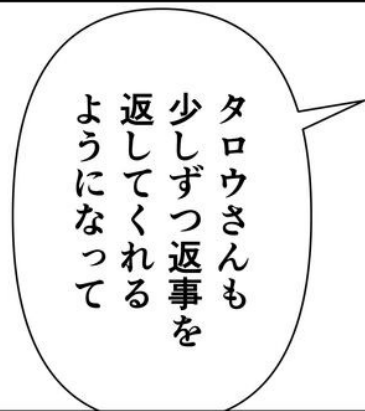
この人を世界に  
繋ぎ留めたいって  
すごく思ったんだ

今にも消え入り  
そうに見えて



あんなに身体が  
大きいのに

…タロウさんに  
初めて会ったとき



タロウさんも  
少しずつ返事を  
返してくれる  
ようになって



毎日夜を一輪  
買ってその後  
ずっと話しかけて



オレにできる  
ことって  
ひたすら喋る  
ことばかりで



ずっと一緒に  
いないといけないって  
思うようになって

それで  
この人が世界から  
消えないように



そんな嬉しさが  
あったんだ

オレを通して  
タロウさんが世界に根を  
おろしていくみたいなの

タロウさんの  
気を引くために

花言葉なんかも  
たくさん憶えた



入口はなんか  
義務感みたいな  
感じだったけど

いつの間にか  
この人の世界を  
独り占めしたいって  
思うようになって

これが恋なんだって  
初めて気づいたりした

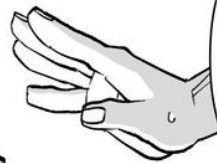


恋人になって  
ほしいって言ったら  
タロウさんはすごく  
困ってて

何度も  
断られた

でもここで  
諦めたら

絶対にお互い  
幸せになれないって  
なんとなく思って  
食い下がったよ



……でもさ  
それって

オレがタロウさんを  
幸せにしたいって  
言うより

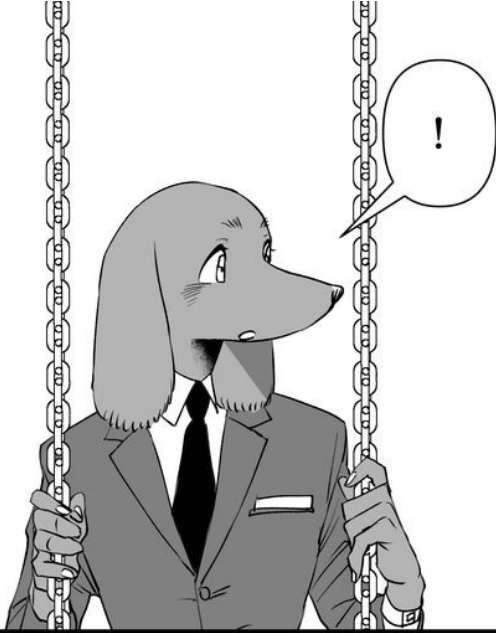
ただ自分が  
幸せになりたくて  
やってたんだと  
思うんだ

母さんには  
それがわかって  
たのかな

だから  
あんなこと  
言ったのかも

……そうか





！

幸せのために  
必要だと思う



僕はそういう  
わがままさは



君の当然の  
権利であり義務だ

それが答えだよ

そう



君はようやく  
手に入れた恋を

自分と同じくらい  
欲しがるひとがいたら  
譲ってあげるかい？

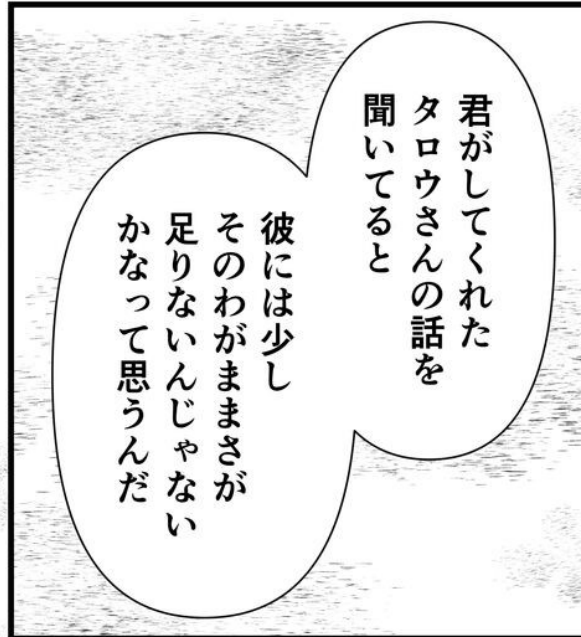
ううん

ふるふる



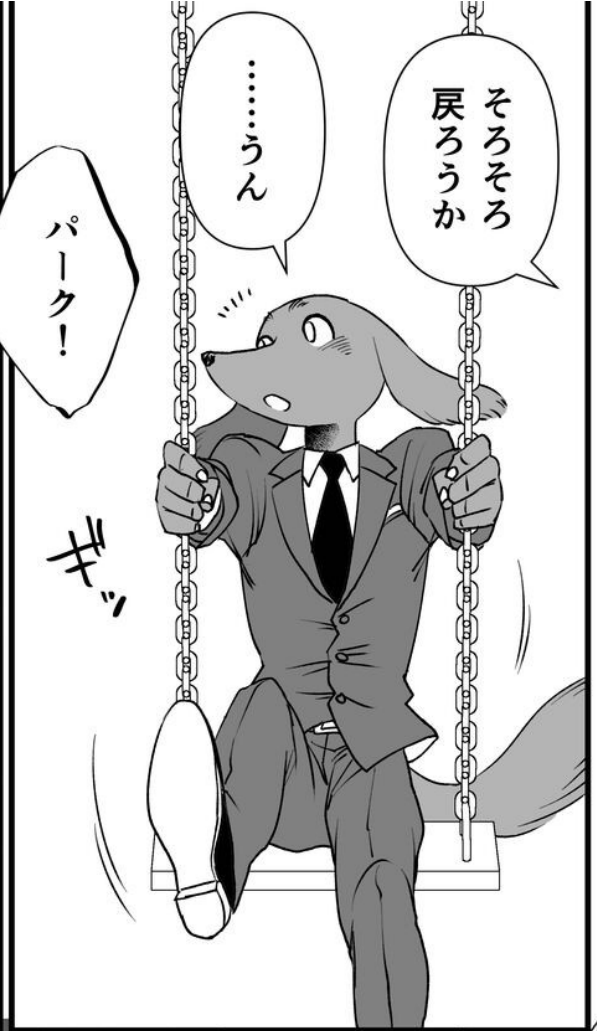
あはは  
そうかもね

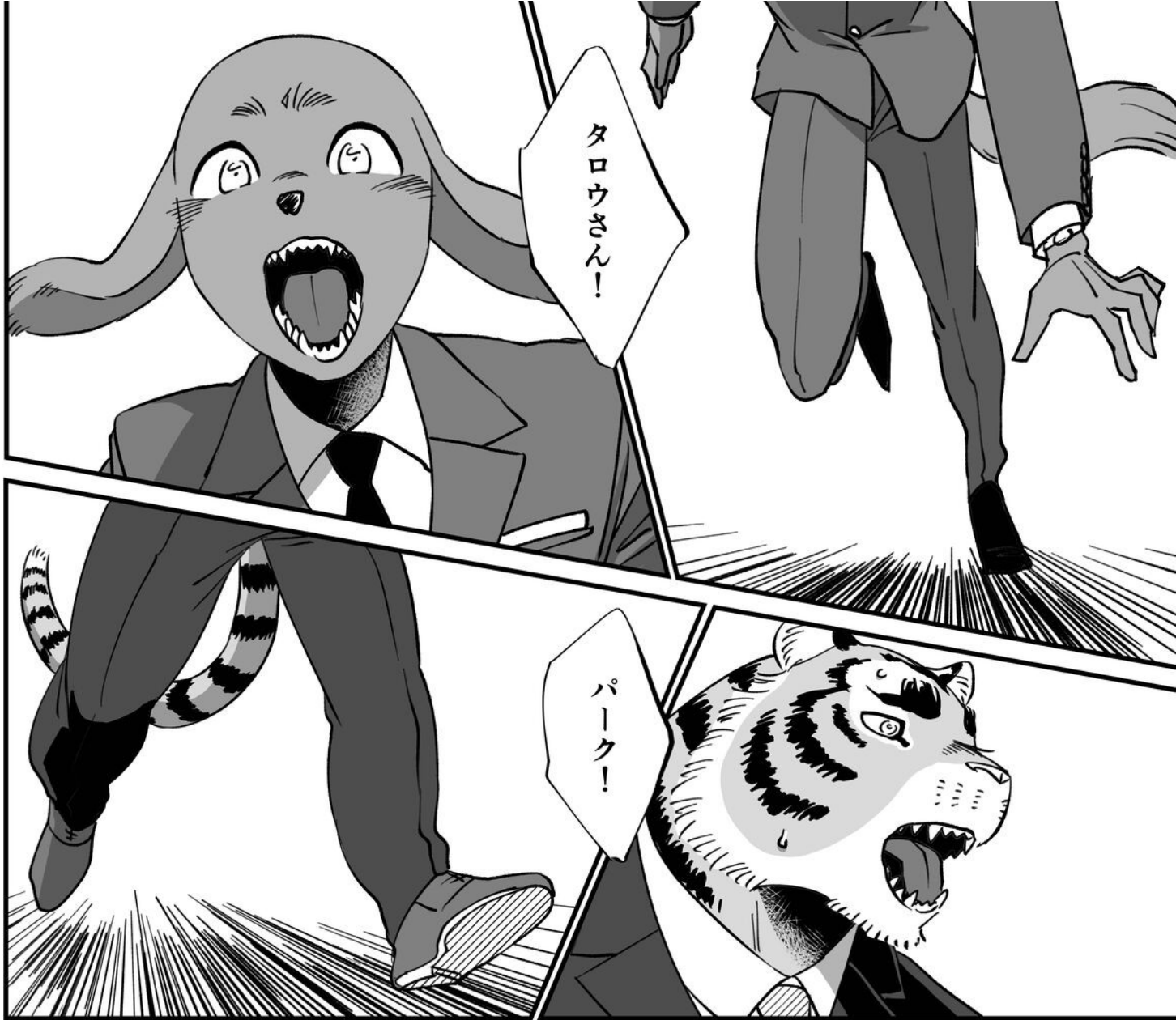
……だからって  
母さんのあの  
言い方はないよ



君がしてくれた  
タロウさんの話を  
聞いてると

彼には少し  
そのわがままさが  
足りないんじゃない  
かなって思うんだ





タロウさん!

パーク!



どうして

ここが  
わかったんですか?

お前が以前  
思い出の公園だと  
言っていたから

今ならきつと  
ここだと思った

…!

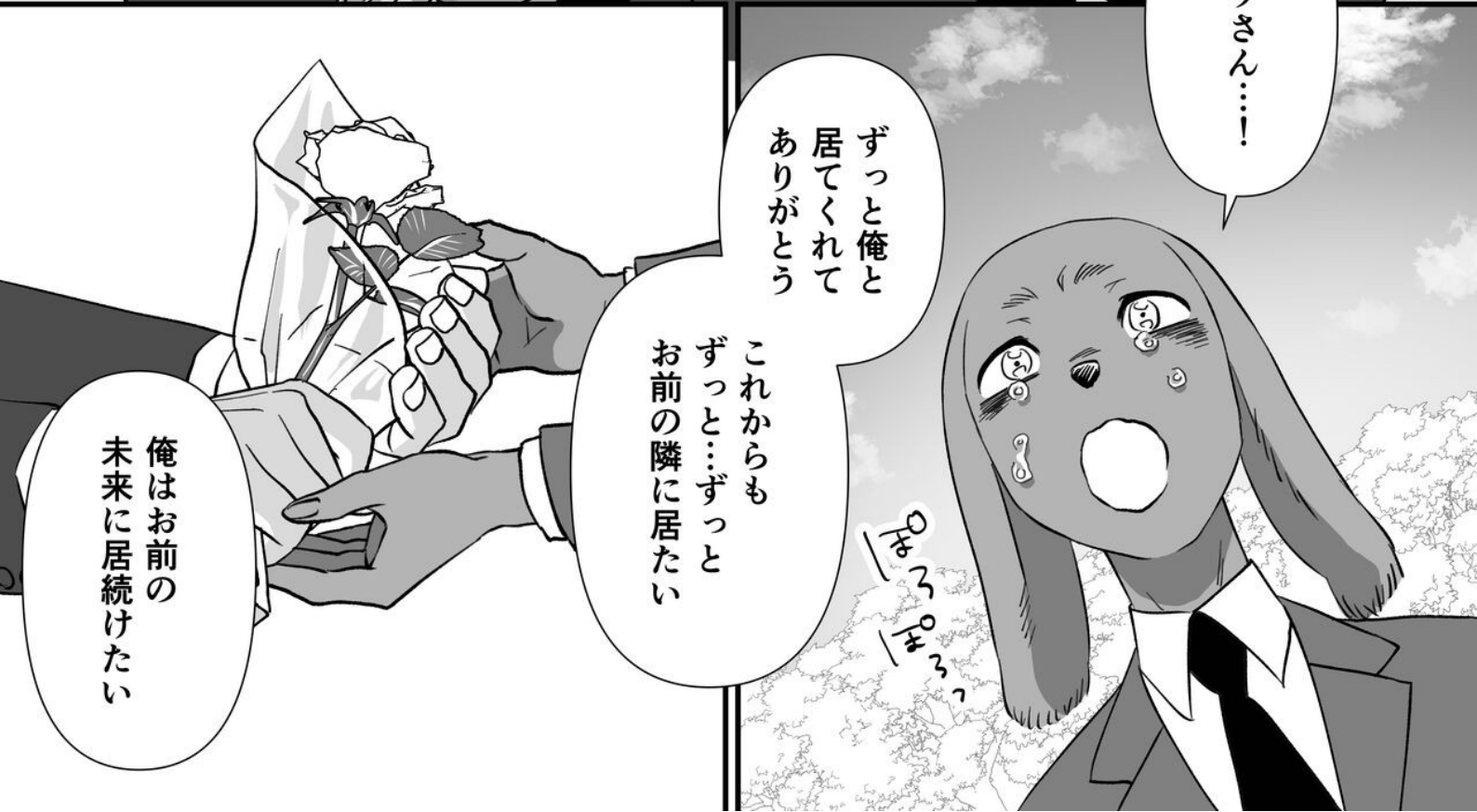


これを  
受け取ってほしい

これ……

白いバラ……

タロウさん……!



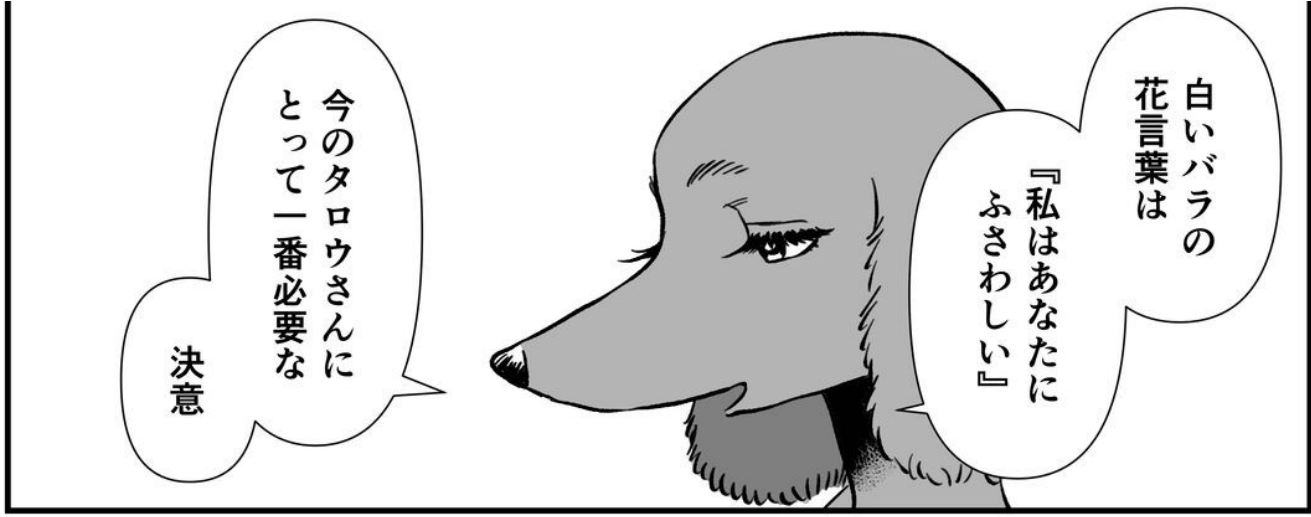
ずっと俺と  
居てくれて  
ありがとう

これからも  
ずっと……ずっと  
お前の隣に居たい

俺はお前の  
未来に居続けたい

ほろほろ



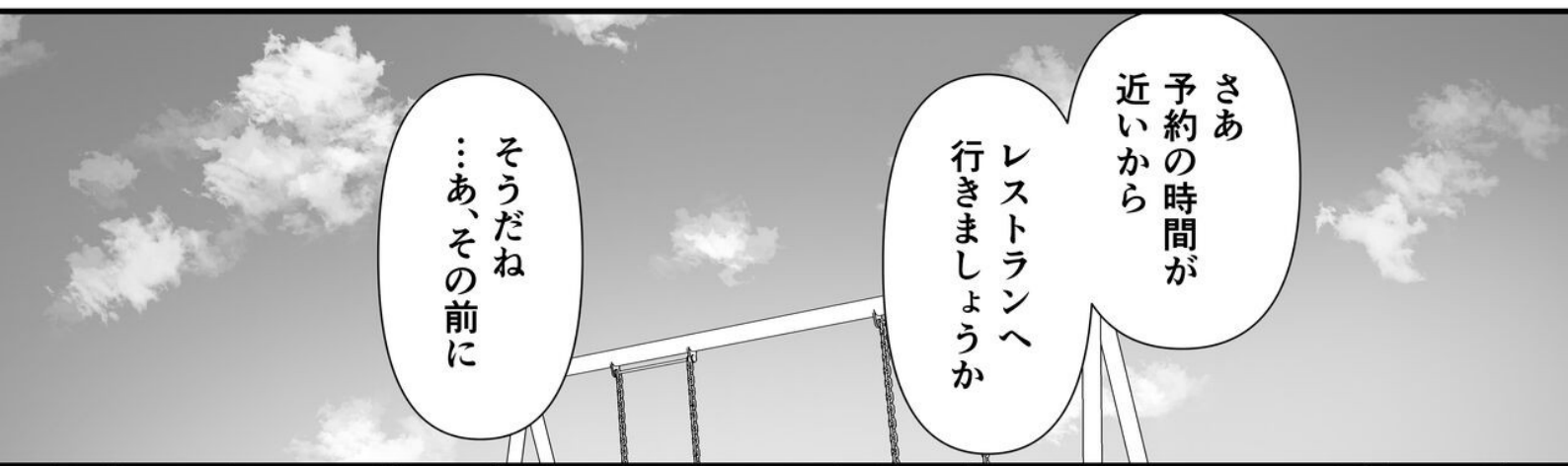


白いバラの  
花言葉は

『私はあなたに  
ふさわしい』

今のタロウさんに  
とって一番必要な

決意



さあ  
予約の時間が  
近いから

レストランへ  
行きましょうか

そうだね  
…あ、その前に



おーい  
二人とも！

4人で  
写真を撮ろう！

